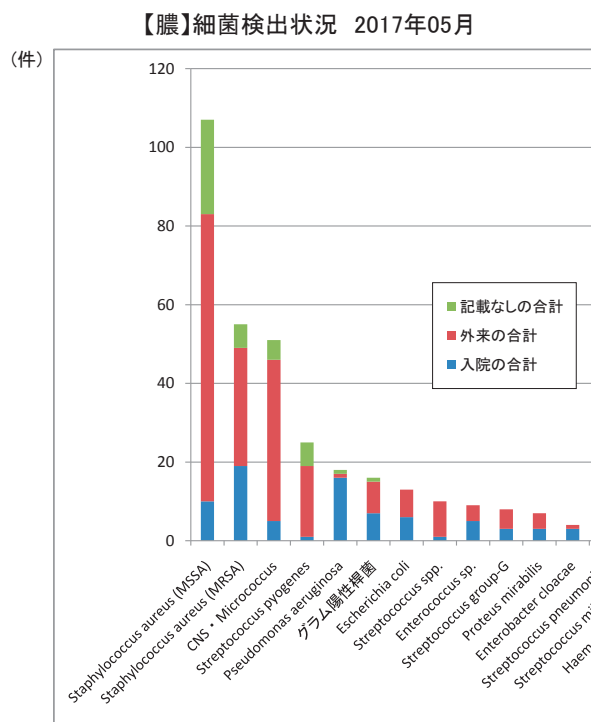
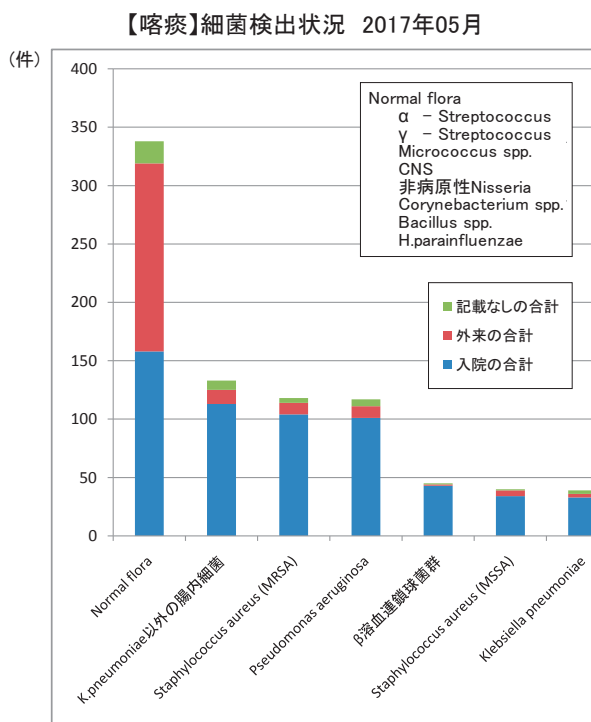


細菌検査統計報告 (当検査センター受託分)

診断・治療にお役に立てるよう当検査センターで受託した細菌検査における細菌検出状況及び細菌薬剤感受性情報を一部取り上げご報告いたします。全体の情報は当検査センターホームページに掲載されていますので、併せてご覧いただけたら幸いです。

今回は、入院患者から多く検出されている *Pseudomonas aeruginosa*（緑膿菌）について、喀痰、膿からの検出状況と、薬剤感受性情報を掲載いたします。

【細菌検出状況】



Pseudomonas aeruginosa は土壌や下水などの湿潤な環境に広く分布しています。ヒトにおいては消化管や咽頭、鼻腔粘膜、腋窩部など湿潤した部位に定着することがあり、日和見感染の原因となることもあります。頻度は低いですが健康人からも分離されることがあります。医療環境では人口呼吸器や加湿器など湿潤環境が重要な感染源となり、医療関連感染を生じやすくなります。

【細菌薬剤感受性情報】

2017年5月分

アンチバイオグラム（Pseudomonas aeruginosa）

系統	薬剤記号	商品名	%		
			S(感性)	I(中間)	R(耐性)
ペニシリン系	PIPC	ペントシリン	84	0	16
セフェム・オキサセフェム系注射薬	CMX	ペストコール	35	48	17
	CAZ	モダシン	81	9	9
	CZOP	ファーストシン	87	9	4
	CFPM	マキシピーム	83	15	2
カルバペム系	IPM	チエナム	72	3	25
	MEPM	メロペン	73	13	15
	DRPM	フィニバックス	80	11	9
	BIPM	オメガシン	69	17	14
その他β-ラクタム系	AZT	アザクタム	51	27	23
	S/C	スルペラゾン	64	27	9
	T/P	ゾシン	82	9	9
アミノグリコシド系	AMK	アミカシン	99	1	1
	TOB	トブラシン	97	0	3
	DKB	パニマイシン	100	0	0
	GM	ゲンタシン	98	0	2
	ISP	イセパシン	86	11	3
テトラサイクリン系	MINO	ミノマイシン	0	0	100
その他抗菌薬	FOM	ホスミン	18	18	64
合成抗菌薬	LVFX	クラビット	59	7	34
	TFLX	オセックス	56	5	40
	CPFX	シプロキサ	62	5	33
	NFLX	パキシダール	78	4	17
	PZFX	パシル	55	8	37

感染症法では、カルバペネム系薬（IPM チエナム）ニューキノロン薬（CPFX シプロキサ）およびアミノグリコシド系薬（AMK アミカシン）の3系統の抗菌薬に対し、すべて耐性と判定された緑膿菌による感染症を多剤耐性緑膿菌（MDRP）感染症（五類感染症、基幹定点届出）とされています。当センターでの分離状況を下記に掲載します。

検出緑膿菌における多剤耐性緑膿菌（MDRP）割合 2016年1月～12月

呼吸器系	消化器系	泌尿器系	血液・穿刺液系	その他（膿など）
0.2%（5件）	0%（0件）	3%（18件）	13%（2件）	0%（0件）

当検査センターホームページでは詳細な情報をご覧いただけます。<http://www.labo.city.hiroshima.med.or.jp/>